

北公民館

生き生き学級開く

◆寿大学

6月16日(土)北公民館で、県作業療法士会理事の毛利雅英先生をお招きして、寿大学が開講されました。



先生には、病院・福祉施設の勤務や訪問リハビリなど、数々のご経験をもとに、「寝たきりにならないために、させないために」という演題で講演いただきました。

先生は、潜在能力がありながら間違った介護によって寝たきりで過ごしていることの指摘や、寝たきりにならないためには、日常生活と社会性の活性化、特に「生活行為に勝る訓練は無い。」というお話をされました。  
125名の参加者の皆さんは、真剣に耳を傾け、熱意あふれる学習会となりました。

▼真剣に耳をかたむける皆さん



7月19日(木)には、バス3台で鳴門・脇町方面へ館外研修に出かけました。  
今後も、人権・生活情報・交流活動など来年の1月まで毎月1回開催する予定です。

◆分館家庭教育学級

北公民館と愛護部連絡協議会の共催で分館家庭教育学級を開催しています。5月、6月に大間、上高柳、西古泉、北川原地区で、生涯学習推進講師の先生をお招きして開催されました。それぞれの先生の豊富な経験や立場から健全な子どもの育成、親や家庭のあり方、子どもが健全に育つ地域づくりについての講演を

▼大間での分館家庭教育学級の様子



していただきました。参加者の質問に、先生方もていねいに答えてくださり実りのある学習会でした。  
残りの4地区についても、9月以降開催予定です。

◆青少年育成会支部学習会

岡田校区青少年育成会では、7月5日、18日の間に、各地区で支部学習会(青少年の健全育成活動並びに地域における児童・生徒の生活指導学習会)を行いました。

小・中学校の先生から学校での様子や夏休みの生活指導についてのお話があり、その後、啓発映画「少年犯罪と親の責任」を視聴し、助言の先生に総括をしていただきました。お母さん方を中心に、質問や意見などがたくさん出され、活発な学習会となりました。

保育シリーズ

優しい気持ちで育んで

宗意原保育所 石川満寿子

宗意原保育所では、3・4・5歳児と一緒に生活をする中で優しさやいたわりの気持ち、自分で考えて行動する力を持つ子どもに育てたいと、2月から異年齢児の交流を増やし、4月から保育形態を少し変えています。私は、その中の3歳児担任ですが、4歳児にも5歳児にもかわわっています。

前日までの遊びの続きから、泥団子作り、ジュース作り、包丁使いの3つのコーナーを用意したある日、私は、10名の子どもと一緒に砂をふるいにかけてお団子作りを楽しみました。ピカピカで真ん丸のお団子ができて、「ほら、みて!」と喜ぶAちゃんたち。ジュースコーナーでは、B先生を囲んで、園庭いっぱいに咲いている花や葉っぱを使って作った、とってもきれいなピンクや紫のジュースを手にしてうれしそうなお子どもたち。C先生の包丁コーナーには、「きょうも、野菜切る。」と、朝から楽しみにしていたD君の笑顔があります。年齢の枠を超え、自分ですきな活動を選んで満足する

までじっくり遊ぶ子どもたち。

新しい保育形態に、希望に胸膨らませながらも不安がいっぱいで、「みんなで子どもにとつて良い方法を考えていこう!」と言う先輩の言葉に背中を押されてのスタートでしたが、今は、子どもたちの生活が、遊びが、楽しく充実した毎日です。

子どもたち一人ひとりを大切に保育を実践し、心ゆとりを持ち、みんなを連携を取り合いながら一日一日を大切に過ごしていきたいと思



▲みんなの笑顔にかこまれて...